

令和6年度 保健師現任教育 実績報告

1		2		
保健所名	南部保健所	朝霞保健所		
管轄地区	戸田市、蕨市	朝霞市 志木市 和光市 新座市 富士見市 ふじみ野市 三芳町		
目標	〈保健所〉 ・専門的な健康課題に関する知識を習得し、関係機関との連携による地域保健活動を実践できる力を育成する。 ・個別支援等から地域の課題を抽出し、新しい事業を展開することができる。 〈蕨市〉 ・専門職・行政職としてのスキル向上 〈戸田市〉 ・新任や経験年数の浅い保健師の教育体制を再構築する。 ・組織改正により、各部署の業務を共通理解し、横断的に必要な情報の共有等を行う。	〈保健所〉 ・新任期保健師が保健師としての基本的な視点を身に着けアイデンティティを確認できる。 ・地域の健康課題の明確化と連携協働の取り組みを保健師間で情報共有できる。 ・地域課題に応じた保健活動や事業の企画・展開ができる。	◇朝霞市 全庁の課に配属されている代表保健師で、課題の共有や今後の方向性について、検討する。新人教育で利用するチェックリストを活用しやすいように修正する。 ◇志木市 保健師の経験年数や定年等を勘案しながら各所属で身に付けた保健師としての専門性を生かしたジョブローテーションできるようにする。人事課の新規採用職員の指導シートを活用しながら、計画的に達成度を評価し、適宜具体的な指導を行う。 ◇和光市 県のキャリアラダーの具体的な活用方法の検討、保健師横断的会議の開催・地区課題の制度横断的な検討・保健師活動指針の作成に向けた準備・統括保健師導入に向けた準備	◇新座市 1各キャリアに応じた保健師活動ができるよう計画的に現任教育を実施する。 2庁内の保健師が情報交換できる場を設ける。（新座市災害時医療救護マニュアル作成を契機に庁内保健師の連絡会議の開催が可能か） 3令和6年度中に「新座市災害時医療救護マニュアル」の作成 4子ども家庭センターの設置に向け、関係部署と調整を引き続き行う。 ◇富士見市 保健師人材育成プログラムを全体で活用し、地域保健に貢献できる保健師を目指す。各自のキャリアと課題を意識し、業務に取り組むことができる。災害時の保健師の対応を明確にし、各自が意識を持ち、有事に動けるようにする。 ◇ふじみ野市 個々の保健師が自身のキャリアについて意識を高め、業務に取り組むことができる。分散配置の中でも、共通の意識
	実施結果	【地域会議】 ・1回目：令和6年5月14日（火）参加者6名（市3名、県3名）2回目：令和7年2月14日（金）参加者6名（市3名、県3名） 【研修】 【新任期保健師研修】 日時：令和6年10月29日（木） 内容：「ケースを理解する」～本書を引き出すためには～ 講師：臨床心理士 菊池礼子氏 参加者：23名（市14名、県9名） 【中堅期・管理期保健師研修】 ①災害時の健康管理研修 日時：令和6年11月21日（木） 参加者：38名（市26名、県12名） 報告：「能登半島地震 保健師派遣の経験」報告者：鴻巣保健所 技師 正田健保健師 川口市保健所 主査 増本栄二保健師 講義：「DICTの活動について」「避難所における保健活動」講師：国際医療福祉大学大学院 坂本晴世氏 ②災害時健康管理研修 日時：令和7年1月17日（金）参加者：36名（市25名、県12名） 講義：「健康危機管理において中堅期・管理期に必要とされる技術」講師：元朝霞保健所保健師 斉藤富美代氏 報告：ふじみ野市庁内保健師連携会議における災害対策の取り組みについて」 報告者：ふじみ野市保健センター 深沢梓沙氏 【中堅期人材育成研修】 日時：8月、11月、2月 参加者：6名（固定） 内容：母子保健情報共有 【その他の取組】 〈蕨市〉 母子事例、精神事例のCC開催 〈戸田市〉 キャリアラダー自己チェック 庁内保健師業務連絡会開催予定	◆保健所 【地域会議】R6.6.28 開催 R7.3.18 開催予定 【研修】○新任期（1～2年目）対象（拠点保健所研修） 10月29日「事業評価（相談対応）」 ○中堅・管理期対象（南部保健所共催）「災害時健康管理研修」 11月21日 国際医療福祉大学大学院 坂本准教授 ・「能登半島地震 保健師派遣の経験から」・「DICT（災害時感染制御支援チーム）の活動について」 ・演習「避難所開設にあたり必要な物品」「受付の設置場所、専用居室の確保と動線」等 1月17日 ・「健康危機管理において中堅期・管理期保健師に必要とされる技術」元朝霞保健所 保健師 斉藤氏 ・「庁内保健師連携会議における災害対策の取り組みについて」 【その他の取組】 ・新任・中堅：キャリアラダーに基づく面接・新任期：管内市幼児健診実地研修（新座市、ふじみ野市） ・県健康福祉研究発表会発表4件・各種研修会参加、事例検討・保健所実習の実習指導者サポート ・年度末に個人の担当業務の「業務振り返りと引き継ぎシート」を作成しチーム内共有 ・各業務の担当地区保健師で情報共有する機会を設け地区診断に活用 ◇朝霞市 【研修】 ○事例検討会（年9回開催）精神保健福祉士から助言を受け、検討。他課、他職種の役割を共有。 ・代表保健師による幹事会は実施できず。 その他、県や保健所主催の研修にキャリアに応じて参加。災害に関する研修に複数で参加（主任級中心） 【その他の取組】 ○庁内保健師連絡会：開催ができなかった。 （幹事会）代表保健師による情報交換の場。各課の保健師の役割について情報共有する場とし、情報共有を行う。その他、災害に関するグループ研修、子ども家庭センター設置にむけた打合せを実施。 ◇志木市 【研修】 ・県等が開催する研修に参加し、保健師連絡会や部会で共有した。 ・近年はオンライン研修が増えているため、業務を調整し受講しやすくなってきた。 ・庁内チャットのグループ機能を活用し、外部からの研修案内を共有。現在の業務と直接関係なくても、関心のある研修に参加できるようにしている。 【その他の取組】 ・保健師連絡会を3回開催し、各所属の課題等情報共有を行った。また部会（管理職部会、災害部会、若い保健師の勉強会）、それぞれにテーマに沿った取り組みを行った。 ・スーパーバイズ研修などの事業を通して、スキルアップと庁内連携を深めた。 ・子ども家庭センターの立ち上げに向けた定期的な会議でサポートプランを協議するなかで、支援や多機関連携のスキルアップにつなげた。 ・保健師人材育成プログラムを活用した自己チェックと面談を実施した。 ・公衆衛生学会のパネル展示等で、市の保健活動についてまとめた。	◇和光市 【研修】 ・9/28大規模地震時医療活動訓練を保健師研修として位置付け ・12/10、12/17、R7/1/22の小規模自治体活動報告リレーへの研修参加 ・ネオバラ課では、令和7年度からの総合子ども家庭センター設置にむけ、保健師3名が統括支援員養成の研修を修了することができた。 【その他の取組】 ○7/1、9/28、10/15、R7/3/7に保健師連絡会を開催 統括保健師導入の検討に向けて、保健師を3つの部会に分けて検討を行い、3/7の連絡会で部会での検討内容を共有した。 （1）保健師人材育成推進部会（12/10、12/17、R7/1/22の小規模自治体活動報告リレーへの研修参加またはアーカイブ配信での受講後、和光市での取組及び今後の方針への意見出しを部会検討内容とした。） （2）組織横断的な取組推進部会（部会所属者の各課・各事業における保健師の役割の洗い出しを行い、保健師業務の分析・共有を行った。） （3）防災体制検討部会（和光市防災マニュアル（応急救護所等）の改訂を目指して、救護所設置個所の洗い出しやマイルストーンの設定を行った。） ○R7/3/14に「庁内検討会」として和光市統括保健師検討委員会を開催 委員：保健師所属部長、保健師所属課長+企画人権課長、職員課長、危機管理室長、保健師資格を有する者 ・他5歳児健診の実施により、心理士や医師と幼児の発達に対する意見交換をする中で、知識の向上を図ることができた。 ◇新座市 【研修】令和6年度新任保健師1名（保健センター） 配置あり。 保健師の各キャリア、担当等に応じて、県・保健所等が主催する研修等 ・新任保健師研修（母子育児会）・保健師教育担当者プリセプター研修 ・精神保健個別支援技術研修会・南部保健所・朝霞保健所合同保健師研修会 等 【その他の取組】 ・新任保健師には、指導保健師等（プリセプター）による支援、振返り面接を実施。ケース対応については、随時ケースカンファレンスによる助言等を行った。 ・第3次新座市いきいき新座21プランの策定 ・子ども家庭センター設置に向け2部(子ども未来部・いきいき健康部)での調整会議の実施 ◇富士見市 【研修】 ・県主催等の研修会に積極的に参加し、課内で共有した。 【その他の取組】 ・リーダー会議を2月4日に実施。庁内保健師業務連絡会のテーマと日時を決定。 ・庁内保健師業務連絡会（3月26日開催予定）に向けて準備中。 ・人材育成プログラムを活用して、R5年度に初の試みで面談を実施したが、R6年度は実施できていない。
評価（現任教育は、計画どおりに行えたか。目的、目標は、どの程度達成できたのか。課題は解決できたのか。）	（地域会議） ・各所属の実情を理解し、情報を共有する場となっている。 （研修） ・新任期、中堅期・管理期の保健師研修ともに朝霞保健所と共催で実施。南部保健所は蕨市と戸田市のみを管轄する保健所であり、情報交換や保健師間の交流の面から有効である。 ・新任期、中堅期・管理期の保健師研修ともに演習を導入した。参加者から演習を通して他組織の保健師と交流もできると及び学びになると好評であった。 〈蕨市〉 ・担当分野のCCの実施が地区担当業務の質の向上につながっている。 〈戸田市〉 ・組織改正に伴い、庁内保健師業務連絡会設置要綱を改正し、活動体制の見直しを図る。組織改正に係る今後の保健師業務について、確認及び課題を整理し情報共有予定。	◆保健所 ①年度当初に管内市町にヒアリングを実施。課題の共有とともに各市町が自組織の強みに気づききっかけとするとともに、地域会議や研修で他市町と共有することができた。 ②災害時保健活動について、管内の取り組みを共有し一覧表を作成。南部保健所と共催で研修開催し、その一覧表を活かして検討した。災害に備え着手すべきことを確認することができ、モチベーションアップにつながった。 ③キャリアラダー面談により業務や能力を客観的に振り返ることができ自信につながり適正なジョブローテにも活用できた。 ④新任期保健師の実地研修として管内市の協力を得て乳幼児健診参加し地域の母子保健事業や母子の状況を把握することができた。 ⑤所内研修や引き継ぎシートの作成、地区状況を共有する会実施により、各事業や管内市町の保健活動について理解を深めることができた ◇朝霞市 庁内保健師連絡会議の開催ができず、幹事会のみとなった。しかし、次年度以降の、体制や保健師の現任教育について検討することができた。R7は経験年数別での研修を企画する予定である。教育の体制を整備することができおらず、課題。災害に関する調整の必要性を共有できたので、今後小グループで活動を進めていく予定である。 ◇志木市 ・人材育成プログラム活用により、個人の振り返りと合わせて志木市の人材育成の課題をまとめた。また、実施結果を所属長や人事課とも共有した。一部、人事ヒアに反映した。	◇和光市 ○統括保健師の導入はできていない ○地域課題を検討するための深度化が図られていない ○保健師活動指針ができていない ○和光市統括保健師検討委員会を設置し、組織として検討の開始が出来た ◇新座市 1.各キャリアに応じた保健師活動ができるよう各キャリアに応じた研修への参加を勧奨し、受講できた。 2.庁内保健師が情報交換できる場所を設けることができなかったが、保健所合同研修（災害時研修）の共有場を引き続き検討していく。 3.「新座市災害時医療救護マニュアル案」を医師会、歯科医師会、薬剤師会に提示し、意見集約中。 4.子ども家庭センターの設置に関して庁内関係機関と調整を重ね、令和7年4月から子ども家庭センター（分庁型）を設置予定。 ◇富士見市 ・R6年度はリーダーメンバーに異動、昇格、担当業務の変更等があり、全体的に動き出しが遅くなった。 ・庁内保健師業務連絡会が今年度も年度末ギリギリの開催予定になってしまったが、継続性のある課題（災害対応等）になかなか取り組めていない今までの反省から、R6年度末の庁内連絡会は、R7年度につながる流れを計画できた。	◇ふじみ野市 ・県等が開催する研修会に積極的に参加し、その内容については回覧等で共有している。 ・定期的に行われる人事評価面接に合わせて、キャリアラダーに基づく面接も行った。 ・今年度は既卒の職員を4名採用。プロセプターとプリセプティは定期的に面接を実施した。 ・保健師連携会議で行ったワークでは、部署を超え様々な領域の事業について研究した。当初、他市へのヒアリングを通して考える癖、気づく力をつけることを目標としていたが、今後の事業展開や他市との比較で当市の強みなどにも気づくことができ大変充実した研修内容となった。 ◇三芳町 ・研修の参加が母子保健担当の保健師が主になっていたが、今年度は健康増進部門の保健師もフレイル予防の取り組みを通し、田団体の研修等に参加することができた。 ・今年度より児童福祉の実施する事例検討にも参加することができた。昨年度以上に、福祉系の職種と合同での事例検討を実施でき、互いの役割や職種の強みなど理解を深めるとともに、連携の強化が図れたと考える。 ・今年度より分散配置となったため、互いの業務の理解や情報共有の機会にもなった。地区診断を進めることで、地域の理解を深めていくことができた。日程の調整等で、予定より作業が遅れていることもあり、引き続き次年度も実施していく予定
次年度計画（概要）（評価をどのように踏まえて、計画を立てるか。）	（地域会議） ・管内保健師の人材育成をともに考える場としていきたい。 （研修） ・中堅期人材育成について来年度も継続する。所属の人材状況に応じて新任期も含むこととした。 〈蕨市〉 ・災害時保健師活動マニュアルの検討 〈戸田市〉 ・組織や業務上の役割に合わせた研修に今後も出席し、自己研鑽に努め研修内容の共有を図る。 出席した研修の一覧を作成し効果的な参加を調整する。 ・庁内保健師業務連絡会開催内容を検討する。	◆保健所 ①ヒアリングは今年度同様、市町に出向いて実施予定 ②災害時保健活動については、南部保健所と合同研修企画予定 ③今年度同様 ④新任期保健師が配置された場合、管内市町の協力依頼する。 ⑤今年度同様 ◇朝霞市 市として、現任教育をどのように進めるか、幹事会等で検討が必要と考えている。また、統括保健師の必要性についても話し合いの場を持ちたいと考えている。 ◇志木市 ・保健師連絡会や部会で情報共有し協働することが、人材育成の機会となり、保健師の働きやすさにもつながっていくことを期待したい。 ・人材育成プログラム活用にあたりキャリアレベルの認識のバラつきがあった。また面談での確認内容等、事前に統一していく必要がある。	◇和光市 ○統括保健師の導入に向け深度化を図っていく ○保健師連絡会の要綱を定め、定期開催の実施 ○部会についての再編成を含め今後も継続実施 ◇新座市 1引き続き、各キャリアに応じた保健活動ができるように各キャリアに応じた研修への参加を引き続き勧奨し、研修に参加しやすい環境づくりに努める。 2引き続き、庁内保健師の情報交換の場の設置について検討していく。 3マニュアルの完成は令和7年度中を目途に進めていく予定。 4合同ケース会議及びケースの支援等子ども家庭センターの円滑な運営を目指していく。 ◇富士見市 ・R6年度末の庁内保健師業務連絡会において、R7年度の取組（複数のグループに分かれてテーマに沿って活動、まとめ、発表）を全員で共通認識するスタートにする。 ・人材育成プログラムを活用した面談を実施する。	◇ふじみ野市 ・自庁での研修開催はなかなか難しいため、引き続き県等の活用していきたい。 ・保健師連携調整会議が定期的に開催できていることは当市の強みである。ただし人材育成プログラムやシステムが確立できていないため、引き続き保健師連携調整会議の場を活用していきたい。 ・災害時の健康管理について、来年度は医師会の協力のもと、「医療救護マニュアル」の完成を目指す。 ◇三芳町 令和7年度は、健康増進部門においても、日本公衆衛生学会の参加費が予算化できる予定のため、どの部署においても学会に参加できる体制ができた。広く情報を得て、学ぶ機会を担保したいと考えている。 スーパーバイズの確保が課題ではあるが、新規採用を予定しているため、引き続き研修できる機会を作っていきたいと考えている。 次年度は、保健師連絡会にて引き続き地区診断を進めていくとともに、災害時の保健師活動マニュアルの作成を検討している。派遣職員からの情報などをともに、フェーズを分け、どのような対応が必要か共有していく予定。

令和6年度 保健師現任教育 実績報告

	3	4	5
保健所名	春日部保健所	草加保健所	鴻巣保健所
管轄地区	春日部市・松伏町	草加市・八潮市・三郷市・吉川市	鴻巣市、上尾市、桶川市、北本市、伊奈町
目標	【共通】 管理的立場にある保健師が、管内の保健師に必要な能力について共通認識し、現任教育体制の整備・充実を図る。 （保健所） ・個別対応力の向上 ・関係機関との連携力の向上 ◇春日部市 ・部署を超えた保健師間でのつながりを保てる ・個々の職員のスキル向上 ・各部署の保健師が抱える課題を共有できる ◇松伏町 ①次期、統括保健師となる主査の保健師が、町における保健師の役割・課題について情報共有することができる。 ②分散配置されているも、保健師として現任教育を受けることができる。	・管内全体として、保健師の現任教育を考える。 ・統括保健師の配置を推進する。 ・組織横断的つながりを強化し、健康危機に備える。	すべての保健師が、自分の能力や課題を自覚し、資質向上に向けた努力を行う。 個別支援スキルの向上により、自信を持って相談対応ができる。 保健師としての「行動力」を持ち、「ケアイノベーション」に配慮しながら、生き生きと保健師活動ができる。 全ての保健師が、常に専門性・責任性を意識し、法律に即した保健師活動が展開できる。
実施結果	【地域会議】 1回目 令和6年5月23日 AM 会議開催 課題の共有、今年度の研修計画の検討 2回目 各市町との個別ヒアリングで対応 春日部市 令和7年2月4日 松伏町 令和7年2月14日 【研修】 ○拠点保健所における人材育成研修 ○東部ブロック保健所管内現任教育打合せ 1回目 令和6年5月30日 研修計画の検討 2回目 令和6年11月1日 研修事前打合せ 3回目 令和7年3月6日 今年度のまとめ ○P D C A研修 講師：文京学院大学 教授 米澤純子先生 第1日目（10/4）20名参加 第2日目（1/9）14名参加 ※参加者以外にファシリテーター7名参加 ○健康危機管理研修 11/18（月）春日部市役所 会議室＋わいわい 対象：ブロック内管理的立場保健師（次期会） 参加者：34名（県14名・市町20名） 内容：三郷市のコロナ対応報告 県保健所の健康危機管理対応計画 グループワーク 【保健所別研修】 ○分散配置を経験して考える保健師の役割 7/16（水）春日部市役所 会議室 参加者：31名（県5名・市町26名） 内容：各所属の分散配置経験者からの体験談 講義、グループワークでの意見交換 【その他の取組】 ・県保健医療政策課や東部ブロック保健所主催研修、関係団体等開催の研修へ参加 ・健康福祉研究発表会への発表 ◇春日部市 ○庁内新任期保健師研修 9/26（木）15:00～17:15 春日部市役所 参加者：5年目までの保健師8名 内容：いきいきシニアライフ応援事業（高齢者の保健事業と介護予防事業の一体的実施）の紹介、情報交換・共有 ○庁内保健師研修 12/25（水）13:30～15:30 春日部市役所 参加者：21名（3課所）1～2人配置の3課からの出席がなかった 内容：災害対策（市防災計画の読み解き、保健師の役割確認） ○統括保健師設置に向けて 管理的立場にある保健師（3名）で現任教育等企画しており、統括保健師の役割はとれている。「統括保健師」を市として位置付けることについて、保健所から市健康保険課長に説明（2/5） ◇松伏町 «松伏町» ○町内の保健師の主査・主幹打合せ 2/14（金）保健所との現任教育打合せ会議において現状と課題の共有。 ○保健師への面談の実施 ○県管理期保健師研修（3/11）の中で、現在春日部保健所に派遣されている角野主任が松伏町と県の相互派遣の報告を行う。 ○統括保健師設置に向けて総務課長含め管理職へ相互派遣終了後も統括保健師を設置したくよう説明（4/10）	【地域会議】 ①第1回 5月15日 参加者14名（ハイブリッド開催） 各所の現状と課題、現任教育計画等について情報交換を実施。 ②第2回 1月29日 参加者13名 現任教育振り返り、情報交換等 【研修】 保健所・市保健師対象の研修会 ○ 拠点保健所主催研修会への協力・参加 ・地域別会議で出た意見を東部地域保健所間で共有し、拠点保健所主催の研修会を開催した。 「管理期保健師対象 健康危機管理研修」 ○ 管内保健師研修会 ・みる・つなぐ・うごかす地区把握研修 ・管内保健師業務相互研修 ・コネクトナビ（県ナレッジマネジメント研修）発表3市、参加4市 保健所保健師対象の研修会 ○ 所内保健師勉強会 6回開催 新任期保健師対象の所内勉強会の開催 記録の書き方、アセスメント力養成、プレゼン力向上、インテークの基本、所長講話等 ○ グループ会議での業務まとめ発表、復命研修の実施 【その他の取組】 ○所内担当制による保健師キャリアラダー面談 ○2年目3年目による学生実習「保健師オリエンテーション」実施 ○所内OJTとして、担当以外の業務を体験するプログラムを実施	【地域会議】 ○第1回 日時：R6.5.23（木）10:00～12:00 会場：鴻巣保健所 健康相談室 参加者：20人 内容：①保健師現任教育の現状と課題について②来年度の管内保健師現任教育計画（案）について③統括保健師の配置について④情報交換 ○第2回 日時：R7.2.5（水）9:30～11:30 会場：鴻巣保健所 健康相談室 参加者：16人 内容：①保健師現任教育の実施結果について②来年度の管内保健師現任教育計画③保健師活動の課題等について情報交換④災害時に向けた体制整備について【研修】 ○新任期・中堅期保健師研修①（精神障害に対応した地域包括ケア構築推進研修と合同開催） 日時：R6.5.16（木）14:00～16:00 会場：鴻巣保健所 大会議室 参加者：39人 内容：講義「相談・支援の基本のき」 講師：臨床心理士・公認心理師 丸山美保 氏 ○新任期・中堅期保健師研修②（母子保健連携調整会議と合同開催） 日時：R6.10.22（火）14:00～16:30 会場：鴻巣保健所 大会議室 参加者：14人 内容：講義とグループワーク「情報収集力・たむけ力・支援力を磨きましょう」 講師：保健師のための相談室（なごみ）塚原洋子氏 ○新任期・中堅期保健師研修③（母子保健連携調整会議と合同開催） 日時：R6.12.12（木）13:40～16:30 会場：鴻巣保健所 大会議室 参加者：15人 内容：講義とグループワーク「保健師記録を考える」講師：保健師のための相談室（なごみ）塚原洋子氏 ○拠点保健所人材育成研修（熊谷保健所会場） 日時：R6.12.18（水）13:30～16:30 会場：熊谷地方庁舎 大会議室 参加者：28人（うち管内10人） 内容：事業発表（上尾市・上里町・横神明）とグループワーク「PDCAサイクルに基づいた事業展開」 講師：東都大学 ヒューマン学部看護学科公衆衛生看護学教授 市原千里氏、准教授 中島高志子氏、講師 吉羽久美氏 ○管理期保健師研修（交通安全） 日時：R6.11.15（金）18:30～21:00 参加者：14人 ○「バ」向上のための研修（管内保健衛生活動連絡協議会と合同開催） 日時：R6.10.4（金）9:30～11:30 会場：鴻巣保健所 大会議室 参加者：25人 内容：講義「保健師活動指針の策定の必要性と策定時の留意点」 講師：元埼玉県保健師 瀬田節子 氏 ○熊谷保健所拠点管内災害対策研修① 日時：R6.7.16（火）13:30～16:30 会場：熊谷地方庁舎 大会議室 参加者：46人（うち管内13人） 内容：講義と演習「災害発生時における保健医療活動」 講師：自治医科大学看護学部教授 香山甲甫 氏 ○熊谷保健所拠点管内災害対策研修② 日時：R6.8.27（火）13:30～16:00 会場：熊谷地方庁舎 大会議室 参加者：42人（うち管内12人） 内容：講義「変遷に向けた地域課題による地域 特性共有シートの作成」講師：自治医科大学看護学部准教授 島田裕子氏 ＊管内で「バ」グループを立ち上げ、地域特性共有シートの作成に取り組んだ。3回36人参加。 ○熊谷保健所拠点管内災害対策研修③ 日時：R6.8.30（金）13:30～15:00 会場：熊谷地方庁舎 大会議室 参加者：37人（うち管内13人） 内容：講義「市町村における災害時保健活動マニュアルの作成」 講師：自治医科大学看護学部教授 香山甲甫 氏 ＊管内「バ」グループを立ち上げ、災害時保健活動マニュアルの作成に取り組んだ。3回38人参加。 ○災害時の保健医療対策研修会（保健所別研修） 日時：R7.3.14 19:00～20:15 わいわい研修 内容：災害時医療救護所設置等に係る医療機関と行政との連携（仮題） 講師：上野中央総合病院 災害医療の小児科救急科科長 相田文氏 氏 上尾市健康増進課 課長 吉永広根氏 ○「バ」保健師とのまきを活用した人材育成：毎月動員発表勉強会をらめ実施。全7回。 ○鴻巣保健所管内保健衛生活動連絡協議会保健部会での研修（6回） 【その他の取組】 ○キャリアラダーの自己チェックの実施 ○保健所の新任期保健師の市町母子保健事業の見学実習：2人R7.1.14 3歳児健診、R7.1.16 1歳6か月児健診、R7.1.31 4か月児健診
評価（現任教育は、計画どおりに行えたか。目的、目標は、どの程度達成できたのか。課題は解決できたのか。）	【地域会議】 ・共通課題から研修を企画し各所属主体的に取り組めた 【研修】 （拠点所保健所における人材育成研修） ・東部ブロックとして地域課題を共有した上で、研修等の企画、実践ができた。 ・ブロック内で研修を共有（PDCA研修） ・R4～3年目の開催。今回は経験年数の条件外し新任期の参加者もいたため、実践活動の乏しさから十分な理解が得られない参加者がいた。（健康危機管理研修） ・コロナの振り返りから平時からの管理期保健師の健康危機への対応を学び合い、お互い良い刺激となった。（保健所別研修） ・分散配置で得られる経験や成長を知り、所属を超えた保健師同志の意見交換により前向きな意識変化が得られた。 【その他の取組】 ・東部ブロック保健所間の協力により、当保健所主催以外の研修を受講できる機会が得られた。 ◇春日部市 （庁内新任期保健師研修） 日頃接点のない他課の職員との交流ができ、市保健師としての繋がりをもちつことができた。 （庁内保健師研修） ・発災時の保健師の動きを把握することができ、限られた人員でどう活動するか考える機会が得られた。 ◇松伏町 分散配置になっている保健師との情報共有の機会が設定できていなかった	【地域会議】 ・各所属の保健師現任教育等の課題を共有し、管内全体での取り組みについて合意形成を図ることができた。 ・相互研修の開催を通じてお互いの役割や取り組みの共有が行えた他、研修等を通じて業務の評価や充実のヒントを得る機会となった。 【研修】 ・拠点保健所主催として研修会を企画したことにより、近隣同規模自治体での取り組みを知る機会や、災害時の対応について考える機会となった。 ・研修の目的、目標、参加させる管理職側が同じ目的、目標を共有していく必要性があった。 ・協働での企画は好評であった。研修会の開催や調整を通して、他業務においても連絡が取りやすくなった等の副次的効果を得られた。 ・所内の体制としては、中堅期の保健師が少ない。現状を受け止め、今ある人材で相互に高めあうための企画や、件数を検討する必要がある。 【その他の取組】 ・年度末に中堅期と新任期2年目ペアで相互に業務を体験し、自信のキャリアアップやワークエンゲージの確認の機会になった。 ・所長、副所長講話については、職種を超えて所内全体での人材育成の機会となり、好評であった。	地域会議 ○地域別会議は、年度初め、年度末の2回開催でき、現任教育の現状や課題、統括保健師の配置や災害時に向けた体制整備等について情報交換できたので、有意義であった。 ○「バ」的役割を担う保健師が顔を合わせ、保健師活動に係る課題等について共有することで、「バ」維持、連携強化に繋がった。 ○新任期・中堅期保健師研修 ○昨年度同様、新任期・中堅期保健師を対象とした個別相談・支援技術の向上を目的とした研修は、大変好評であった。 ○グループワークを取り入れたことで、管内の市町・保健師の交流の場ともなり、顔の見える関係が構築された。 拠点保健所人材育成研修 ○事業発表により、発表者は「バ」向上の場を得る機会になった。一方聴講者は、具体的な事例を通してPDCAを回す意義や手法について学ぶことができた。 ○対象を中堅期に限らなかったことで、幅広い年齢層の保健師がPDCAについて学ぶ機会となった。 管理期保健師研修 ○今年度は交流し合いながら、管内の管理期保健師の顔の見える関係を構築することができた。 ○夜間開催では参加困難な人もいた。 「バ」向上のための研修 ○管内保健衛生活動連絡協議会と合同開催とし、若手の保健師の参加が多くなった。 ○保健師活動指針についての理解が深まったのはもちろんだが、元気をもらえたとの感想が多く聞かれた。 災害対応研修 ○主に新任期保健師から成る地域特性共有シート作成の「バ」では、成果物として、各市町の地域特性共有シートが完成した。 ○主に中堅期・管理期の保健師から成る市町村における災害時保健活動に「バ」に関する「バ」では、毎回貴重な情報交換が行われ、そのバが作成が少しずつ進んでいる。来年度の完成を目指している。 ○熊谷保健所での研修「バ」グループ・鴻保連保健部会研修・保健所別研修等への参加により災害時の保健活動についての知識や意識が高まった。 とのまきを活用した人材育成 ○短時間でも隙間時間に視聴できたため、取り組みやすかった。保健師活動の基礎を改めて学び、原点に戻り、自身の仕事を振り返るきっかけになった、等好評価であった。 保健衛生活動連絡協議会研修 ○保健部会に参加することで、市町・保健所保健師の顔の見える関係が構築され、連携強化に繋がった。また、専門的知識、技術の獲得に繋がった。 「バ」を用いた評価と面談 ○次の目標を明確にでき、「バ」維持に繋がった。 市町母子保健事業の見学実習 ○保健所の新任期保健師が、市の母子保健事業の実施状況や乳幼児の正常な成長発達への理解を深める機会となった。
次年度計画（概要）（評価をどのように踏まえて、計画を立てるか。）	【地域会議】 ・各市町での統括保健師の位置づけの明確化 【研修】 ・年2回＋必要時のオンライン開催を計画していく。 ・継続的に実施するため、過去に出席した方も含め複数回経験することでより理解を深める。 ・東部ブロックで管理期保健師同志の平時の繋がりの機会が必要であるかも含めて検討していく。 ・春日部市・松伏町の共通課題を保健所別研修で取り上げていく。 ・分散配置が進む中、保健師の職能を意識できる機会の提供が望まれている。 【その他の取組】 ・動画配信による研修受講機会が多くなっており、受講管理や受講後に職場内で復命・共有ができるよう検討する ◇春日部市 ・（庁内新任期保健師研修）年度の早い時期に定例で実施していきたい。 ・（庁内保健師研修）継続的に取り組んでいく。市防災計画の中に保健師の動きを入れていく。次年度は保健所にも協力いただきたい。 ・（統括保健師設置）具体的な検討を市の内部で進めていけるよう保健所からも働きかけを続ける。 ◇松伏町 ・保健センターの職員会議等に参加する等、情報共有の機会を設定していく。 ・（統括保健師設置）具体的な検討を町の内部で進めていけるよう保健所からも働きかけを続ける。	【地域会議】 ・開催回数を増やすことについて検討 ・統括（地域統括）の会議を開催の方向で検討 ・災害時保健活動について管内各市と保健所で一緒に考えていくことを検討 【研修】 ○拠点保健所と協力し、東部地域全体としての保健師のレベルアップを図る研修会を企画 ・管内保健師との連携強化を目的とした研修会の継続、共通テーマをもって開催する ・直接業務での連携機会が減っているため、研修等の機会に「顔の見える関係づくり」を推進していく。 ・随順別の研修会の企画、特に中堅期、プレ管理期に対する研修会を中心に計画する。 市統括保健師、保健所地域統括保健師との連携機会を随時つくる 【その他の取組】 ・中堅期以降の保健師に対するOJTの検討 ・キャリアラダー面談、担当制は継続していく ・所長、副所長（事務）講話、所内OJTについても継続していく。	地域会議 ○「バ」的役割を担う保健師が、管内の保健師の人材確保・育成等について情報交換・検討を行い、連携しながら育成していくことが重要と思われるので、来年度も2回程度地域別会議を開催する。 ○「バ」的役割を担う保健師の資質向上を図るため、研修の要素も入れていけると良い。 新任期・中堅期保健師研修 ○コロナ禍で入職し、研修機会が乏しかったり、個別支援経験が少ない新任期保健師が多くなっている。また育休等の取得により、現場経験が少なく、自信をもって新任期保健師への助言ができない中堅期保健師が数見される。さらに、それぞれの所属のみの保健師間の交流では視野が広がりにくい。そのため、来年度以降も新任期・中堅期の人材育成を、管内全体で実施していく。 ○来年度も事例検討を取り入れた個別支援スキル向上を目的にした研修や「バ」障害や発達障害等の対応困難ケースへの対応研修等母子保健・精神保健事業と「バ」しながら企画していく。 拠点保健所人材育成研修 ○今年度同様、事業発表やグループワーク等によりPDCAサイクルを回しながら事業展開していく手法について学ぶと共に、北部地域の保健師と交流し、視野を広げることを目指す。 管理期保健師研修 ○分散配置が進み、「バ」がない中、孤独感や負担感を感じている管理期保健師が多い。資質向上、交流を目的に、年2回程度は研修・情報交換の場を確保し、「バ」向上に努めていく。 ○「バ」向上のための研修 ○コロナ禍を経て「バ」低下を招いている保健師が多いため、引き続き鴻保連と共催で元気が出る研修・交流の機会を設定していく 災害対応研修 ○管外への出張は制約があり、複数日・複数人の参加が困難な市町が多いため、総務・地域保健推進担当とも連携し、管内で災害対応の研修会を引き続き開催していく。 とのまきを活用した人材育成 ○今年度で全7回終了したので、来年度以降は新規採用保健師の育成や学生実習等で活用していく。 保健衛生活動連絡協議会研修 ○鴻巣保健所管内ならではの保健衛生活動連絡協議会保健部会に積極的に参加し、所属の異なる保健師と交流し、連携強化を図ると共に、専門的知識の獲得に努める。 その他の取組 ○「バ」を用いた自己評価や市の町母子保健事業の見学実習は、継続実施していく。

令和6年度 保健師現任教育 実績報告

	6	7	8
保健所名	東松山保健所	坂戸保健所	狭山保健所
管轄地区	東松山市、滑川町、嵐山町、小川町、ときがわ町、川島町、吉見町、東秩父村	坂戸市、鶴ヶ島市、毛呂山町、越生町、鳩山町	所沢市、飯能市、狭山市、入間市、日高市
目標	○新任期保健師が個別ケースの支援能力を高めるとともに保健師としてのアイデンティティを獲得できる。 ○保健師業務に関連した専門研修への受講及び事例検討会やOJTにより保健師としての資質を向上させる。 ○評価の重要性、評価指標について理解し、PDCAサイクルにより保健関連施策を展開していくことができる。 ○専門的な知識に加え、連携・調整に係る能力、行政運営や評価に関する能力を身につける。 ○健康危機対応に備え、平時から地域を意識し、地域特性を理解した保健活動ができる。 ○デジタルを活用したWeb研修、会議等の開催により職種内、多職種連携を推進する。	・新任期・中堅期の保健師が、PDCAサイクルに基づいた業務展開ができるようになる。 ・限られた人員体制下で業務が円滑に進められるようDXの推進や情報交換により、業務の円滑化を図る。	○処遇困難事例の事例検討会により、アセスメント力、個別支援能力が向上し、専門性の高い保健師活動ができる。 ○新任期保健師が、体験を基にPDCAによる保健師活動を確認すると共に、仲間と語り合うことで保健師のアイデンティティを確認、醸成できる。 ○地域診断等根拠に基づき、個別課題から地域課題への視点及び活動の展開、予防的介入の重視等の視点から、既存の活動や事業を評価し、事業の見直しや新たな事業を展開できる。 ○コロナの経験を活かし、新たな感染症や健康危機に備えての課題を検討することにより健康危機管理能力が向上する。
実施結果	【地域会議】2回開催 開催日：①令和6年5月31日②令和7年2月28日 会 場：東松山保健所 大会議室 参加者：①11人 ② 15人（予定） 内 容：①・今年度の現任教育体制 ・保健師活動に係る課題と今年度の現任教育計画 ②・現任教育体制の取組状況と評価 ・来年度に向けての課題及び計画 【研修】 ○母子保健支援者研修（中堅期） 開催日：①令和6年10月18日 ②令和6年11月27日 会 場：東松山保健所 大会議室 参加者：①13人 ②22人 内 容：演習①グループ支援の理解（E7ドミニック）②ハイレスク事例の個別支援 講 師：保健師のための相談室なごみ 塚原洋子 氏 ○拠点保健所人材育成研修（狭山保健所圏域） 開催日：令和6年11月26日 会 場：ウエスト川越 4階大会議室 参加者：18人（管内2人） ※入職2・3年目対象 内 容：講義及び事前課題を用いたグループワーク ・講義「保健師活動はPDCA～個別事例の支援場面をPDCAで振り返ってみよう～」 ・事前課題（保健師活動を振り返り、PDCAまとめ）／事後課題（アリアタと面談） 講 師：東京家政大学健康科学部看護学科 教授 山口佳子 氏 ○東松山保健所管内新任・中堅期保健師NM研修 期 間：令和5年11月～令和7年2月 R6年度6自治体（R5年度4自治体） 方 法：zoomによるランチミーティング 参加者：延109人（全10回） 内 容：新任期・中堅期保健師を主とした業務紹介 ○管理期保健師研修 開催日：令和7年2月28日 会 場：東松山保健所 大会議室 参加者：14人 内 容：テーマ「経年的、系統的かつ組織的に取り組む保健師人材育成を目指して～保健師のコアを語ろう～」 講 師：保健師のための相談室なごみ 塚原洋子 氏 【その他の取組】 ○事例検討会、その他業務研修等	【地域会議】 ①5月29日開催 現任教育体制及び業務の取組状況・統括保健師の配置状況について・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の取組状況・情報交換 ②2月6日開催 現任教育体制の評価・次年度の予定・こども家庭センターの設置状況・設置後に見えてきた課題・保健事業のICT（栄養アプリ）などの活用状況について・地域の課題分析方法、分析結果の活用方法研修 【研修】 ■保健所主催研修 ○新任期・中堅期保健師研修 6月19日開催 「個別支援と集団支援の相乗効果で親支援」 ○業務ごとの研修会への参加周知 こどもの発達、精神保健、健康づくり等 ■拠点保健所研修 ○新任期研修（2年目3年目）1月26日開催 「PDCAで動く保健師活動」 ○リーダー的保健師及び保健師 1月24日開催 「災害時の避難所の運営～感染対策～」 【その他の取組】 ・キャリアラダーに基づく面談（新任期：保健所） ・分野ごとの連携会議や研修の場で情報交換 ・健康福祉発表会等での発表	【地域会議】 ○第1回保健師連絡調整地域別会議R6.5.31 ・管内人材育成研修の検討、情報交換 14人 ○第2回保健師連絡調整地域別会議R7.2.27 ・各機関における保健師人材育事業報告・評価 ・災害対策について・情報交換 次年度計画 13人 【研修】 ＜新任期前期研修＞（拠点保健所研修：狭山・東松山・坂戸保健所）R6.11.26川越地方庁舎4階大会議室 対象：新任期前期（2・3年目保健師） 講義：「保健師活動はPDCA」～個別事例の支援場面をPDCAで振り返ってみよう～講師：東京家政大学健康科学部教授 山口 佳子氏 グループワーク 参加者：新任期13名、管理期5名 ＜新任後期～中堅前期研修＞（保健所別研修） 「地域の健康課題を明確にし、事業の見直し・提案についての考え方を習得しよう」（キャリアラダーA2からA3獲得を目指す） 対象：新任後期半～中堅期前半（3～10年目保健師） ○第1回 R6.7.1 狭山保健所 講義：「既存事業を見直してみよう」講師：東京家政大学健康科学部教授 山口 佳子氏 事前課題シートを利用した事業振り返り発表 発表者：狭山保健所保健師（4年目） グループワーク 参加者：新任後半～中堅前半19名、指導的立場8名 ○第2回 R6.12.9 狭山保健所 事前課題発表及びグループワーク、グループ発表 講評：東京家政大学健康科学部教授 山口佳子氏 参加者：新任後期～中堅前期17名、指導的立場5名 ＜管理期研修＞（拠点保健所研修） R7.1.24 講義：「災害時における避難所運営について～感染対策の視点から考える保健活動～」講師：防衛医科大学病院感染管理認定看護師 市江希氏 グループワーク及び講評 参加者：管理期他51名（集合・オンライン） ＜保健師専門研修＞ ○母子保健専門研修 「ハイレスク母子事例検討会」 各市会場で年5回 ○精神保健専門研修 「ひきこもり事例検討会」 全体研修1回、各市会場で事例検討会 年5回 ○災害時対応所内研修 R6.6 ○健康危機（感染症）訓練 R7.1、R7.3 【その他の取組】 ○県研究発表会・学会等発表の支援 県発表会6題提出 ○キャリアラダーに基づく面接の実施（随時） ○保健予防推進担当内で担当事業への参加
評価（現任教育は、計画どおりに行えたか。目的、目標は、どの程度達成できたのか。課題は解決できたのか。）	【地域会議】 ○計画どおり年2回開催することができた。事業計画から評価までを振り返る場や地域課題を共有することによる地域全体での人材育成の取組みの必要性を改めて感じた。 【研修】 ○集団と個別、支援の両輪を体感・理解することにより、関係者の支援技術の向上を回り、事業の有効性を再確認する取組みとなった。 ○職歴や経験の多様化の中、保健師活動の基本となるPDCAサイクルについて学ぶことができた。入職2・3年目保健師を対象としたことで、保健師活動を経験した中での研修となり、より効果的に自身の活動を振り返ることができた。 ○2年間で全9自治体の保健師が発表。機会を設定することで、プレゼン力を高めるとともに、参加者も含め保健師としての活動の意義を改めて感じE7-フォアガにつながった。 ○現任教育の役割を担う管理期保健師が、自組織の現任教育状況や課題について思いや経験を言語化し共有することで、保健師としての専門性を再確認することができた。	【地域会議】 ①5月29日開催分 昨年度の会議において、成人期以降を担当する保健師が集まる機会を持ちたいとの希望があった。今回、「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の取組状況」をテーマとして高齢者支援にかかわる保健師の情報交換ができた。 ②2月6日開催分 上記の議題について、情報交換ができた。 【研修】 ■保健所主催研修 ① 新任期・中堅期保健師研修では、個別支援と集団支援の相乗効果について理解を深め、虐待予防を視野に入れた親支援の事業展開につながった。一方で、3～6年目くらいの中堅前期の保健師の研修や交流の場が少ない。 ■拠点保健所研修 ○新任期研修 担当している事例について、PDCAでの振り返りを行うことで、個別支援の理解と実践力を深められた。 ○災害時の避難所の運営～感染対策～」について、現場レベルの情報交換がき有益であった。	＜地域会議＞ 会議にて、管内の状況、課題等を共有した。おおむね共通する点としては、新任期保健師の占める割合が多い。中堅期の指導体制が少ない。分散、1人配置保健師の支援及び保健師としての横断的な情報課題共有。多職種との協働、その中での保健師として専門性のスキルアップ等であった。 課題共有から管内保健師の研修に関し、方針の検討や意見交換し、協力体制について共有することができた。 ＜研修＞ ○（新任前）拠点保健所研修 自身の関わった事例についてPDCAで支援を振り返り保健師らしい支援を行う中で大切だと思ったことをテーマに事前課題の発表、グループワークを実施。支援の目的を明確にすることの重要性や、保健師の役割ややりがいの再認識をした。所属でプリセプターとの面接を行い更に保健師としてのモチベーションの向上につながった。 ○（新任後期～中堅前期）保健所別研修 事前課題シートを活用することで、根拠に基づき、事業をPDCAにより継続性のある事業展開への意識が高まった。アンケートは1回目と2回目同じ項目でアンケートを実施。全体的に評価は上がっている。グループワークは、他市・保健所の事業がわかると高評価であった。 ○（管理期等）拠点保健所研修：災害対策 避難所における感染対策について理解が深まった。 ＜その他の取組＞ 職員に合わせたOJT、保健予防推進担当としての人材育成が必要
次年度計画（概要）（評価をどのように踏まえて、計画を立てるか。）	【地域会議】 ○年2回開催（6月／2月） 管内は、小規模な自治体が多く、各自治体での現任教育の実施は常に課題となっている。地域会議の中で、地域課題を解決するための方策を検討していく。 【研修】 ・入職2・3年目を対象とした拠点保健所研修を引き続き実施。 ・管内NM研修を継続し、実施後のフォローにより、より効果的な人材育成研修とする。 ・比企地域全体で育ちあうことを目指す。 ○中堅期 ・業務の中核を担う中堅期保健師に対する人材育成の課題をあげている自治体が多いため、各業務の研修以外の人材育成としての研修が受講できる体制を作っていく。 ○管理期 ・会議や研修の中で、地域自治体間の情報共有を図り、効率的、効果的な現任教育の事業展開を行う。 ○分散配置により、人材育成研修への参加機会がない部署もあるため、保健師としての人材育成の必要性を理解し、保健師間の横断的なつながりを作っていく。	【地域会議】 ①5月ごろ予定 ・現任教育体制及び業務の取組状況 ・情報交換 ②2月ごろに予定 ・今年度の現任教育体制の評価 ・来年度の現任教育計画・情報交換 【研修】 ■保健所主催研修 ①中堅期保健師研修 成功体験の少ない事例の研修や相互交流の場の設定。 ②業務ごとの研修会への参加周知	＜地域会議＞ 人材育成、災害対策等含め、管理期保健師に求められる役割は大きい。今年度と同様に、会議にて管内の状況課題等共有し、顔見える連携体制づくりを進める。 人材育成に関しては、管内全体の保健師の員向上を目指して各所属で行った効果的な方法を共有するとともに課題解決の検討を行い管理期保健師も学ぶ機会を得る方法の1つとして地域会議を活用していく。 ＜研修＞ ○（新任前）拠点保健所研修 個別事例をPDCAの手法で振り返る研修機会は少ないため継続の必要性はある。拠点保健所研修のため他の2保健所と、内容の検討を要する。 ○（新任後期～中堅前期）保健所別研修 R6年度～開始した内容の研修。開始にあたり考え方の定着のため3年計画で同じ内容を実施する方針としている。 R6年度の研修では「健康課題の優先順位の判断」「評価」に関する参加者のアンケート評価の上昇はやや低めであったことから、これに関して理解をさらに深める内容を盛り込む必要性がある。 ○（管理期定期等）拠点保健所研修：災害対策 保健師の立場から管内における災害対策に対し、研修や打ち合わせ等継続し実施する必要性がある。 ＜その他の取組＞ 職員に合わせたOJT、保健予防推進担当としての人材育成を継続実施

令和6年度 保健師現任教育 実績報告

	9	10	11
保健所名	加須保健所	幸手保健所	熊谷保健所
管轄地区	行田市、加須市、羽生市	久喜市、蓮田市、幸手市、白岡市、宮代町、杉戸町	熊谷市、深谷市、寄居町
目標	〈保健所〉 ・管内市の課題やニーズを把握し事業に反映する ・専門性の高い技術を取得する ・関係機関との連携力を向上する。 〈加須市〉 ・通常業務の中で、新任保健師として、専門性を発揮できるよう指導する。 ・全ての階級の保健師が、行政職として、「実践能力」と「連携調整能力」を習得する。 〈行田市〉 ・新任期、中堅期、管理期の専門職としての意識とスキルの向上 ・行政職としての力量アップ 新任期：個別・集団支援能力、担当事業の遂行能力の向上 中堅期：困難事例への支援能力、課題抽出・企画立案能力、関係機関との調整能力、後輩育成能力の向上 管理期(主査以上)：保健師機能を基盤にした政策立案、健康危機管理、人材育成能力の向上 〈羽生市〉 ・専門職・行政職としての両方のスキルを向上し、実践能力を取得する	・実践的な個別事例への対応能力を高めるとともに、保健師としてのアイデンティティを獲得できる。 ・PDCAサイクルにより保健関連事業を展開していく能力を獲得できる。 ・健康危機管理能力が向上する。 ・さまざまな形の人材育成を通じ、保健師が共に学び、幅広い視野とモチベーションを維持しながら成長できる。	〈保健所〉 ・新任期から管理期までが、ともに保健所の役割や地域保健活動を再確認しながら、積極的な保健活動を展開する。 ・PDCAサイクルに基づく保健活動を展開できる。 ・各自が自身の課題を明確にし、短期、長期的な目標を持ちやり形成を図る。 ・各自の能力や経験、特性に合わせた育成により、個々の力が発揮される。 ・健康危機管理の理解を深め、危機発生時に、市町と保健所が連携し、円滑な保健活動が実施できる。 〈管内〉 ・市内の情報交換を積極的に行い、横断的な連携を図る。 ・配属先において、必要とされる知識やスキルを身に着ける努力をし、その中で保健師としての専門能力を更に高め活かしていく。 ・国、県、他市町村動向を踏まえながら保健活動を行える。 ・関係機関、多職種と連携し持続可能な健康づくり事業を展開する。
実施結果	【地域会議】 ・保健師の配置状況の把握、現任教育の現状と課題の把握、実施内容の希望聴取等 ・地域別会議 6/27実施 15人 計画策定 母子保健関連事業について情報交換 統括保健師の設置と県の現任教育の情報提供 【研修】 相談研修 講義・ロールプレイ・グループワーク ①健康相談からのフォロー相談 11/29 19人 ②引きこもり相談 12/10 15人 虐待予防事例検討会 講義・事例検討 ①8/27 14人 ②12/24 11人 3市合同精神保健事例検討会 講義・事例検討 2/17 母子保健研修「不登校と発達障害」講義 8/8 9人「医療ケア児の支援」講義・情報交換 10/30 15人 拠点保健所研修参加 ①PDCA研修 10/4 26人・1/9 19人②健康危機管理研修 11/18 加須HCから5人 【その他の取組】 ①母子保健連絡調整会議 6/27 ②妊婦期からの虐待防止事業連絡会 2/28 ③地域包括ケアシステム構築事業 5/15 ④北埼玉地域障がい者支援協議会こども部会への参加 6回 ⑤歯科保健連携調整会議 10/17 13人	【地域会議】年2回 第1回6月3日(月)：情報交換：現任教育体制の現状と課題、計画策定 第2回2月4日(火)：(オンライン開催)実績報告と評価、次年度計画 【研修】 幸手保健所管内保健師研修(ハイブリッド開催) 実施日時：令和6年11月11日(月)14：00～16：30 参加者：21名(県6名、市町15名)(会場)県5名、市町4人(オンライン)県1名、市町11人 対象：管内自治体保健師 内容：講義・意見交換 1 講義 「災害時保健活動にむけた基礎知識と組織・体制づくり」 講師：本庄保健所長 柳澤大輔氏 2 情報交換 「各自治体で想定されている保健医療活動の体制～南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)発表時の取り組み～」 【その他の取組】 ・今年度は、健康危機管理研修として、幸手保健所管内(全保健師対象)では大規模災害での初動体制をテーマとした内容を、当所も協力(職員を講師派遣)して開催された拠点保健所研修(管理期保健師対象)では新興感染症対応をテーマとして、年2回の企画となるよう調整しました。	【地域会議】 ○保健師連絡調整会議(地域別) 対象：管内各市町筆頭保健師等 第1回：令和6年5月23日(木) 第2回：令和7年2月4日(火) 【研修】 ○新任期保健師研修 講義＋ワーキング 対象：拠点保健所管内 新任期、中堅期保健師 日程：令和6年8月27日(火) 場所：保健所大会議室 内容：「健康危機管理を見据えた地区診断」講師：自治医科大学 准教授 島田裕子氏 参加：市町30(管内7)、保健所16(熊谷10)WG 3G 各3～4回 ○拠点保健所研修 対象：新任期、中堅期保健師 日程：令和6年12月18日(水) 内容：PDCAサイクルに基づく保健事業 ①講義 ②事例紹介 ③グループワーク 講師：東都大学 教授 市原千里氏(ほか拠点管内保健所、市町保健師 参加：市町15(管内4)、保健所5(熊谷2) ○その他保健所別研修(広域担当との連携) ①災害対応研修 講義・演習 対象：中堅期、管理期保健師、危機防災担当 日程：令和6年7月16(火)内容：災害時の保健活動について 講師：自治医科大学 香山 早苗氏 参加：市町29(管内8)、保健所9(熊谷5) ②災害時保健活動マニュアル 講義＋ワーク 対象：中堅期、管理期保健師 日程：令和6年7月30日(金) 内容：災害時の保健活動マニュアルについて 講師：自治医科大学 香山 早苗氏 参加：市町25(管内7)、保健所10(熊谷6) WG 3G 各3～4回 その他の取組 【その他の取組】 ○キャリアラダーを活用した自己評価(所内) 対象：全員 内容：6月、3月に自己チェック 1～3年目保健師はフォローアップと個別面談 ○「ビギナー保健師とらのまき」を活用した新任期保健師勉強会・交流会 ○市町の統括保健師配置に向けた働きかけ
評価(現任教育は、計画どおりに行えたか。目的、目標は、どの程度達成できたのか。課題は解決できたのか。)	【地域会議】 各市の現任教育の取組や管理者が抱える個々の課題の確認をした。特に子ども家庭センターが設置されマンパワーの確保が大きな課題である。統括保健師の設置について情報提供等を実施したが設置には至っていない。 【研修】 講義のみの研修については県庁等のオンライン研修の受講を呼び掛け、対面でしか実施できない研修のみを保健所で実施することとしている。 相談研修では実践力の向上を目的にロールプレイを行っていない保健師のスキルアップを図った。 母子の研修会は管内からの参加も多く、参加しての感想も好評であった。事例検討では虐待防止のスキルが回られた。 【その他の取組】 行政機関だけではなく医療機関や地域の関係機関の連携が構築できるよう各機関の課題等を情報交換できた。 他職種との協働の中で保健師の資質向上にもつながったと思われる。	【地域会議】 予定通り開催することができた。 【研修】 大規模災害時の保健活動の基本知識を学習するため、事前に各自治体へ研修参加可能な日程を確認し、開催日・開催方式を調整したところだったが、参加者数が予想以上に少ない結果となった。 市町から健康危機管理の面での学習課題があげられたが、大規模災害時の初動体制は自治体によって異なるため、いずれの自治体でも共有できるテーマの設定が大変難しかった。	1 市町・保健所の連携 (1)情報共有 人材確保状況や市内連携、健康課題と取組の現状などを共有し、連携、協働による新たな取組の提案や意見交換を行うことにより、共通認識が高まり、円滑な事業の展開につながった。 (2)人材育成 複数の自治体、保健所が協力することで、研修スタイルやメニューが充実した。また、自治体を超えた同世代の保健師同士のつながりにより視野が広がるとともに支え合う関係づくりの機会となった。 (3)災害対応研修 いずれの自治体においても課題であり、広域的体制が必要となる災害時の保健活動について、マニュアルの策定に着手できた。(新任期・中堅前期研修) 2 キャリアアップ支援 経験と身に着けたスキルを客観的に認識し、課題と目標を設定し、着実にキャリアを積んでいくために、キャリアラダーの活用した自己チェック、プリゼンターや管理期保健師等との個別面談は成長を共有でき有効と考えられる。
次年度計画(概要)(評価をどのように踏まえて、計画を立てるか。)	【地域会議】 会議の実施 【研修】 新任期から中堅期は基礎的な活動実践能力の向上を目指した研修の実施 ・母子保健 ・相談研修 中堅期から管理者は組織人としての能力の向上と専門職としての人材育成のスキルの向上をはかる研修の実施 【その他の取組】 ①母子保健連絡調整会議 ②妊婦期からの虐待予防強化事業連絡会 ③地域包括ケアシステム構築事業 ④北埼玉地域障がい者支援協議会 ⑤歯科保健連携調整会議	【地域会議】 地域会議 年2回開催予定 各自治体の日程調整が難しく、年度前半は集合形式、年度後半はオンライン開催とすることを検討している。 【研修】 数年間の実績を踏まえ、市町保健師が受講しやすい開催方式等について、次年度の管内調整会議で議題とし、研修を企画していきたい。 【その他の取組】 引き続き、東部ブロックの各保健所が開催する研修や拠点保健所研修の日程を共有することで、効率的な学習機会の選択が行えるよう調整していきたい。	1 市町・保健所の連携 (1)情報共有 ・メール・MCSの活用により、積極的に情報共有を図っていく。 ・日常の連携から、共通する人材育成に係る課題について、地域別会議を有効に活用し取組方針を検討する。 (2)人材育成 ・「ビギナー保健師とらのまき」の活用による新任期保健師の研修及び交流 ・PDCA研修での保健事業事例発表(拠点管内2～3市町)を継続する (3)災害対応研修 ・危機防災部署とともに、事前学習、演習を盛り込んだ研修会を継続する。 ・平時の連携強化策を兼ね各市町の災害時保健活動マニュアル作成を継続する。併せて関連の勉強会を検討する。 2 キャリアアップ支援 ・定期的にキャリアラダーチェックやキャリアシート作成していくよう促す。 ・キャリアラダーを有効に活用し人材育成の意識を高めていく。

令和6年度 保健師現任教育 実績報告

	12	13	14
保健所名	本庄保健所	秩父保健所	さいたま市保健所
管轄地区	本庄市、美里町、神川町、上里町	秩父市、横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町	さいたま市
目標	【保健所】 ・PDCAサイクルに基づく事業展開・評価を行い、所内共有する。 ・個別事例の対応力の向上と関係機関との連携力の向上を目指す。 ・ケース支援の共有や連携において関係機関と顔の見える関係を築くことが出来る。 【本庄市】現時点ではなし。 【美里町】キャリアラダーを活用し、キャリアレベルの身につけるべき能力ができていのかどうかを把握する。 【神川町】個人が保健師活動のスキルアップを図る。 【上里町】 ・人材育成プログラムを活用し、個々のキャリアレベルに応じた体制や効果的なジョブローテーションができる体制づくり。 ・新任期は担当事業及び窓口・相談対応が1人でできる。	適切な相談支援ができる保健師 地区診断や災害時に備えた受援準備ができる保健師 セルフケアができる保健師	1体系的な人材育成体制の構築 ・体系的な計画の理解の促進と、計画に基づく人材育成の実施。 ・課題解決のために必要なキャリア別の能力の習得。 ・「キャリアパス」の周知と理解促進を図り、キャリアアップの道をイメージした経験学習の実践。 2分野横断的な連携 ・会議や研修等の機会に、分野横断的な交流ができコミュニケーションが回れる場の確保。 3PDCAサイクルに基づく活動の推進 ・PDCAサイクルに基づき保健活動を適切に評価し、施策を展開する能力の向上。 ・ヘルスプランの改訂時の地域診断等に基づき、企画立案した事業の実践。 4健康危機管理能力の向上 ・感染症や大規模災害等健康危機対応の実践能力の向上。 ・各所属の災害時対応マニュアル及びアクションカード等を作成または修正し、その一部を訓練として実施。 5成長しあえる組織風土の確立。 ・保健活動に対する所属全体のモチベーションの維持・向上。 ・管理職の組織マネジメント能力の向上。
実施結果	【地域会議】 年3回 ・市町別ヒアリング（研修希望等聴取） ○第1回6月4日（集合）5名 現任教育の現状と計画等 ○第2回11月12日（集合）11名 統括保健師の状況、保健師研修計画等 ○第3回2月3日（集合）9名 情報交換、来年度計画等 【研修】 ○拠点（熊谷）保健所主催研修への参加 ○災害対応研修（7/16） ○健康危機発生時を見据えた地区診断（8/27） ○災害時の保健活動マニュアル策定・活用（8/30） ○PDCAサイクルに基づく保健事業（12/18） ○当初主催 ○相談対応研修 メンタルヘル스에課題を抱える方への相談対応の基本（7/17）22名 ○新任期保健師研修 ・キャリアラダー自己チェックリストと振り返りシートを基に保健師活動を発表 ・経験から学ぶリフレクション（講義＋演習）第1回2/10・第2回3/3 12名 ○保健所分野別専門研修 ・市町別出張母子事例検討会（10回） ・子どもの心の健康に関する研修会「ネット・ゲーム依存」（8/30）38名 ・難病医療講演会「災害時の具体的な備え」（10/1）29名 【その他の取組】 ・保健所新採保健師の神川町実地研修 神川町の地域診断、同行訪問2件 ・北部保健所管内管理期保健師懇親会（保健師会長北部ブロック研修と合同開催）に管内2町から3名参加。	【地域会議】 ①第1回県市町保健師連絡調整会議(5月27日開催) 1市4町・保健所計7名参加 ・統括保健師の設置状況に関する情報交換、 ・ヒアリング結果を踏まえた今年度事業や保健所方針などについて共有 ②第2回県市町保健師連絡調整会議(3月19日開催予定) 1市4町・保健所計7名予定 ・管理期保健師研修及び県・市町村保健師連絡調整会議(全体会議)の伝達 ・小規模町村における人材育成に関する情報交換 【研修】 ①令和6年度支援者向け研修会(7月9日開催) ・傾聴について及び情報の集め方・支援者のメンタルヘルス 講師NPO法人 埼玉カウンセリングセンター 代表理事 高倉恵子先生 22名参加 ②拠点保健所主催研修への参加 ・7/16災害対応研修 7名参加・8/27健康危機発生時を見据えた地区診断 3町4名 ・8/30災害時保健活動マニュアル策定の進め方とその活用 1市2町3名参加、12/8 PDCAサイクルに基づく保健活動 4町4名 ③災害時対策に関する勉強会(11月29日) 基礎自治体としての役割を改めて理解したいとの市町保健師ニーズに基づき当所が主催。講師は①埼玉県庁高齢者福祉課②災害対策課③医療整備課職員に依頼した。30名参加 ④第2回県市町村保健師連絡調整会議全体会議で秩父地域の人材育成について長瀬町と資料を合作し発表した。 【その他の取組】 ①市町と同行訪問、要対協働別CCを保健所が提案し開催するなど個別事例を通した連携に努めた ②技術協力医を活用したアウトリーチ型事例検討会を管内1市4町全てで実施した ③秩父地域保健師会を年6回開催、災害時の受援に活かすための地域特性共有シートを作成した ④保健予防推進担当内CC（看護協会方式）2回開催 ⑤ちちぶ坂地域包括ケアシステムにおけるケア連携会議(毎月CCや研修会開催)に保予G職員が順番で参加した。	【地域会議】 1人材育成体系検討会にて、キャリアラダー評価基準（さいたま市版）をルールとともに完成させた。 1-2人材育成体系検討会で、単独配置保健師の人材育成方法について検討実施。試行的に統括保健師が一部の単独配置保健師にキャリアラダー面接を実施。 1-3「多様な働き方意見交換会」を実施。 1-4保健師活動のあり方検討会を保健師活動連絡調整会議等で16回実施した。 2保健事業調整会議（拡大会議）を10月、3月に実施。 各部署から、情報提供、外部研修の復命を行った。 【研修】 1 3～5年次を対象に「他部署を知る」研修を実施。講義39名、見学・体験18名、集合19名が参加。 1-2管理期研修として、「地域ケアシステムにおける管理期の役割」研修を実施。11名参加。 2 中堅期向けに、外部講師による「キャリアを考える」研修を実施。12名参加。 3 今年度から、2年次に地域診断（PDCA）研修を実施。20名参加。外部講師の講義、地域診断を各自まとめ発表まで行った。 4 新任地域従事者及び中堅期に危機管理研修を実施。新任期12名、中堅期25名参加。 【その他の取組】 1部署横断的研修総括表を作成し、保健師配置部署へ周知。 2会議や研修の対象者を異職種、異職位で交流ができるよう、対象者やグループワーク等方法を工夫した。 3健康づくり事業検討会が継続し、多職種協働で、所属を越え、外部機関との事業を実施。 4保健所、保健センターが共同で災害マニュアルを改訂。3月末に完成予定。保健所・保健センターでも訓練を実施。 5プリセプターからのアンケートをもとに、所属での支援体制について、管理期への課題提起や支援策の提案等を行った。
評価（現任教育は、計画どおりに行えたか。目的、目標は、どの程度達成できたのか。課題は解決できたのか。）	【地域別会議】 ○管理期保健師間の情報共有の場として、地域別会議を1回増やし町の会場で実施。 業務別には管内市町間の連携は取れているとのことだが、保健師業務全体の情報交換や検討が出来る場として地域別会議を利用した。 統括保健師の設置等の情報提供・情報共有が出来た。集まれる場は必要という声はあるが、積極的な意見交換はない。 保健所から新規採用保健師の実地研修の相互受入の計画案を出したが、形にはならなかった。 【研修】 ○分散配置も進み、研修への参加が難しくなってきた。 拠点保健所の研修も業務優先と遠方である理由から、PDCAサイクル研修への参加が少ない。 拠点保健所の災害対応研修（集合）後の熊谷保健所管内ワーキングに合わせて、管内市町と協働して何か出来ないか投げかけたが、そのまま流れてしまった。 ○昨年度の要望を受け、保健師以外の職種も対象にした相談対応の研修を開催できた。 【その他の取組】 ○人材育成プログラムによる評価が実施できていないという課題に対し、新任期保健師を対象にキャリアラダー自己チェック・振り返りを行う研修を実施。リフレクションの講義を町保健師に依頼し、研修全体の企画から協働で実施できた。	【地域会議】 ①年度初めに市町ヒアリング→保健所の支援方針立案→連絡調整会議にて共有と意見交換のプロセスで実施したことから現状と課題に則った連携や支援につながったと考えられる。 ②第2回連絡調整会議は研修③に関する伝達講習を主内容としたためオンライン形式としたところ参加しやすいと市町から評価が得られた。 【研修】 ①対人援助職に必要な「相手も自分も大切にしたい傾聴」のあり方を学んだ。相談業務は感情労働であることを認識しセルフケアの重要性を理解できた。 ②拠点保健所主催研修に各市町参加に努めているがマンパワーや移動時間要するため全市町とはいかず。 ③基礎自治体の役割と庁内連携の重要性の理解推進が期待できた。 ④管内市町が一体となり推進してきた地域づくりと人材育成の経緯を振り返り、その意義を改めて確認する機会となった。 【その他の取組】 ①市町・保健所が互いの役割を理解しセルフケアや有効なケース支援につながった。 ②市町保健師から貴重な学びの場との評価を得た。 ③基礎自治体が平常時から行う「受援準備」を考え情報を整理できた。 ④事例の強みに着目した支援を学び特に若手の自信につながった。 ⑤多職種連携と保健師の役割を考える機会となった。	【地域会議】 1完成した評価基準を、全保健師に周知したことでより活用しやすい体制になった。 1-2単独配置保健師自身の能力や技術の獲得レベルが明確になり、人材育成上の知見を得ることができた。 1-3役職定年を迎えた職員を含め役職の役割のヒントを得た。 1-4各部署でも意見交換をする場が持たことで、保健師全体の意識変化につながった。 2参加者の感想で、情報共有と交流の場として効果的であったことが確認された。 【研修】 1 アンケートで「交流ができ今後連携できそう」との声あり、効果の確認ができた。 1-2 実践の中で活かした事例が確認され、一定の効果を確認。継続することで定着を期待。 2 アンケートで「キャリアデザインをイメージできた」が100％で、狙いどおりの結果となったが改善点もあり。 3 2年次の実施により、経験を活かしたより中身の濃いまとめになった。プレゼンの経験にもなり相乗的に研修効果が得られた。 4 アンケート結果から、研修前後の危機意識の向上が確認できた。 【その他の取組】 1総括表の活用で、計画的に研修を受講することができた。 2アンケートにより、グループワークがより深い学びや交流に繋がった事が確認できた。 3外部有識者の会議体で、今年度の取り組みが高評価を得た。企画から評価まで実施し、人材育成にもつながった。 4多くの保健師が作成に関わることで、危機意識の向上にも繋がった。
次年度計画（概要）（評価をどのように踏まえて、計画を立てるか。）	【地域会議】 ○地域別会議を利用し、定例の年3回以外でも管理期保健師が集まれる場を設定していきたいが、内容は各市町の意向を伺ったうえで検討する。 【研修】 ○各市町の新任期保健師の人材育成の現状を見つづ、新規採用保健師の実地研修を保健所と市町の当番制で受け入れる体制を引き続き検討していく。 ○拠点保健所の研修への参加を積極的に呼びかけていくが、管内人材育成研修を市町保健師と協働していきたい。 【その他】 ○災害時の保健活動マニュアルの作成や保健師の体制等について、市町と検討を始めたい。	【地域会議】 ①② 来年度も年度初めにヒアリングを行い担当者の声を聴き現状・課題・保健所へのニーズを把握する 統括保健師を対象とした連絡調整会議を2回開催1回目はヒアリングを踏まえた保健所方針案と意見交換・研修計画、2回目はその結果・評価をオンラインで行う。 【研修】 ①市町の希望テーマなどを把握の上検討、開催 ②拠点保健所主催研修を周知、参加を促す。ハイブリッド開催をお願いしてみる。 ③災害時対策を推進し保健師が有効に住民支援を行うためには定期的な勉強会等の機会があることが望ましいと考えられる。当該勉強会の継続やその方向性等について検討中。 【その他の取組】 ①ヒアリングし継続へ ②ヒアリングし継続へ ③保健師会で検討し災害時対策への取り組みとして継続へ ④継続 ⑤継続	【地域会議】 1明確になった基準でキャリアラダーチェックと面接を行い、人材育成に活かす。 1-2次年度も引き続き面接を実施しながら、体制づくりを検討していく。 1-3次年度は該当者がいないため実施予定なし。 1-4保健師活動のあり方検討会を保健師活動連絡調整会議等で継続実施。 2保健事業調整会議（拡大会議）を10、3月に継続実施。 【研修】 1新任期に、各職場、業務紹介、見学等継続実施。 1-2同テーマで管理期研修実施。 2改善点を考慮し、キャリア形成に有用な研修を継続実施。 3 2年次に地域診断（PDCA）研修を継続実施。手法の学びだけでなく、実際の業務に還元できるよう働きかける。 4継続して、内・外の危機管理研修受講の機会の提供。 【その他の取組】 1部署横断的研修総括表を作成し周知。 2今後もグループワーク等を効果的に活用し、交流や研修効果を高める。 3継続実施。 4完成したマニュアルをもとに、関係機関との検討や訓練を実施。 5プリセプターの支援体制について、研修とおして確認していく。

令和6年度 保健師現任教育 実績報告

	15	16	17
保健所名	川越市保健所	越谷市保健所	川口市保健所
管轄地区	川越市	越谷市	川口市
目標	各自が必要な知識や技術を意識し、組織系統的に資質の向上が図れる。 後輩の育成指導を通し、周囲の保健師がともに学び成長する。 地域の特性や健康課題を把握し、効果的な健康施策を推進する。 管理期が、保健活動や人材育成における課題について、共通の認識を持つことができる。	○経験年数によらず、保健師一人一人が住民の健康課題に対して効果的な保健活動ができる。 ○保健師相互の連携や支援体制を高める。 ○保健師全員が災害時の初動行動を理解し、迅速に保健活動を開始することができる。	・キャリアラダーを活用した人材育成計画の作成（個々のスキルや経験に応じステップアップを目指すことができる） ・新任期保健師の現任教育体制の充実（研修や個別指導体制を強化し、知識やスキルの習得を支援する） ・部署横断的に連携した保健師活動を展開できる人材の育成（他部署と連携し、広範囲で効果的な活動を展開できる人材を育成する） ・計画的なジョブローテーションによる人材育成（異なる業務や部署での経験を通じて、多角的な視点やスキルを持つ人材を育成するため、ジョブローテーションを計画的に行う） ・分散配置された保健師の支援体制、教育体制の構築（均一な支援と教育・研修体制やリモートを活用した支援方法の検討）
実施結果	【地域会議】 研修プログラム検討会開催:4月、7月、11月、3月 ※現任教育に関する評価、次年度計画等を検討 【研修】 1 集合研修の開催（※参加人数は講師等除く） ・現任教育オリエンテーション（17名） ・新任期研修：保健所業務及び保健師所属課の業務について（5名） ・健康危機管理研修：感染症実践型訓練（19名） ・保健師活動に関する研修：思春期保健（38名） ・新任期研修：抄録作成（5名） ・新任期研修：抄録発表（人数未定） 2 新任期個別研修の実施 ・他課所管事業等への参加（14名） 3 自己評価・面接による評価の実施 ・1年目：3、6、12ヶ月経過時に実施。面接者はプリセプター及び教育担当者 ・2、3年目：6、12ヶ月経過時に実施。面接者は教育担当者 ・中堅期：12ヶ月経過時に実施。面接者は先輩保健師 ・管理期：12ヶ月経過時に自己評価のみ実施、グループディスカッションによる振り返りは実施せず 4 外部研修への参加 ・新任保健師研修（5名、ファシリター1名） ・保健師教育担当者研修（4名） ・トピックス研修（1名） ・プレ管理期保健師研修（1名、ファシリター1名） ・第1回管理期保健師研修及び県・市町村保健師連絡調整会議（全体会議）（2名） ・保健師中央会議（1名） ・健康危機における保健活動推進会議（3名） ・公衆衛生看護研修（管理期）（1名） ・保健師等ブロック別研修会（9名） ・埼玉県立精神保健福祉センター「アセスメント技術の向上と簡潔なケースレポート研修」（2名） 【その他の取組】 ・保健師保健活動推進部会の開催 計3回 ・保健活動検討チームの開催 計3回 ・統括保健師補佐会議の開催 計2回 ・保健師懇親会の開催 計2回 ・災害時の保健師活動マニュアルの改訂	【地域会議】 管理職保健師定例会議にて、現任教育の方針等を検討した（年10回開催）。 特に、災害対応の初動時訓練や階層別研修にかかる今年度の計画等について協議した。 【研修】 ・階層別研修実施 【新任期】令和6年7月11日 キャリアラダー、目指す保健師像、保健師に求められる能力 講師：埼玉県立大学 服部真理子氏 出席者：17名 【中堅前期】令和6年8月29日 やる気を引き出すコーチングスキル 講師：菊池臨床心理オフィス 菊池氏 出席者：15名 【プリセプター研修】 令和6年10月3日 グループワーク、座談会 講師：内部職員 出席者：6名 【全体研修】令和6年10月30日 「相談援助職の記録の書き方」講師：アライイ株式会社 八木氏 出席者：31名 【中堅後期～管理期】令和7年1月24日 元気に働き続けるために～困難を乗り越えるための力を高める～ 講師：日本赤十字看護大学 さいたま看護学部 木村氏 出席者：14名 ・人事課主催研修への参加 ・国・県主催の研修・会議等（集合・zoom開催）への計画的な参加。 【その他の取組】 ・保健師業務研究会の実施（年4回）：災害時保健師マニュアルやアクションカード等の作成作業の継続と、初動時訓練の実施 ・統括保健師による保健師全数面接の実施 ・埼玉県健康福祉研究発表会への参加 ・キャリアラダーの実施	【地域会議】 ・管理職保健師連絡会議での共有と意見交換4回/年実施（臨時会含む） ・現任教育担当者会議 6回/年実施 ・プリセプター会議 3回/年実施 ・現任教育担当連絡調整会議 2回/年実施 ・災害時保健師活動マニュアル等作成連絡会議 【研修】 ・保健師全体研修（前期）＊南部保健所との共催 テーマ「災害時の保健活動の基礎」講師；県・市職員による講義とオンデマンド教材活用を組み合わせ 参加者；<集合>南部7人 川口市57人 <配信>44人（南部保健所含む） ・保健師全体研修（後期） テーマ「自組織・関係機関・地域住民との連携・協働」講師；目白大学 安齋ひとみ氏 「各係、各地区の取り組みと成果」の発表 参加者；<集合>56人<配信>19人 ・新規採用保健師研修 ・新任期基礎研修Ⅰ（4日間） ・新任期基礎研修Ⅱ ・階層別個別面談 対象者39人（新任期1年目、3年目、5年目、中堅前期、後期、管理期10年目以降） ・健康危機管理研修 ・外部研修；県保健師向け創造育成研修、国立保健医療科学院、感染症・精神保健・母子保健等の研修、公衆衛生学会、保健師長会、政策研究大学院大学などキャリアレベルに沿った保健師を派遣 【その他の取組】 ・統括保健師による個別面談 人事異動後職員（5～6月）18人 新規採用職員（10月）2人 階層別個別面談 13人 随時 休暇明け 体調不良者 退職希望者等 ・感染症対策研修 ・海外派遣研修報告会（Zoom）
評価（現任教育は、計画どおりに行えたか。目的、目標は、どの程度達成できたのか。課題は解決できたのか。）	【地域会議】 研修プログラム検討会では、現任教育の課題や評価の検討、研修の企画等を行った。目標達成度や各課の情報を共有し、顔の見える関係を築くことができている。 【研修】 様々な内容で集合研修を実施した。抄録作成では、新任期と教育担当者がともに学ぶ体制を整えられた。感染症や思春期保健に関する研修では、知識習得のほか、分散配置されている保健師同士が交流する機会となった。 ・外部研修にも積極的に参加し、個別支援スキルの向上につながっている。 ・全体的に中堅期を対象とした研修が少ない。中堅期の課題に応じた研修を実施することが今後の課題。 【その他の取組】 ・令和6年度から統括保健師が配置されたことに伴い、保健活動に関する会議体が増えた。部署横断的な情報共有の場を持つことができ、今後の方向性について検討することができた。 ・保健師アンケートにより保健活動の現状や問題点等を把握し、それらを踏まえて保健師活動指針を策定することができた。 ・能登半島地震の災害派遣活動を踏まえて災害時の保健師活動マニュアルを改訂し、保健師全員に周知できた。	【地域会議】 ・定例会議の中で事業計画の検討や実施報告・考察などを行い、共通認識を回ることができた。 【研修】 ・階層別研修では、経験年数別の課題点を共有することで受講者のモチベーションを高めることができ、満足度が高かった。 ・相談記録の書き方については、昨今の情報開示を意識した記録の仕方など改めて学ぶことが多かった。 ・外部研修は、受講者について経年的に計画性をもった人選を行った。受講者は各々モチベーションを高め、自身の保健師活動を改めて見直すきっかけにもなり効果的だった。 ・保健師業務研究会では毎年、災害時の保健師活動にかかる準備作業を行ってきており、今年度はマニュアルやアクションカードを活用した初動時訓練を初めて実施したことで、課題点などについて改めて確認することができた。 【その他の取組】 ・保健師全数面談により、各部署の現状や、個々のキャリアプランなどを把握することができた。 ・埼玉県健康福祉研究発表会への近年の継続的な演題発表は、キャリアラダーの全体的な結果の向上に影響している要因の一つと推測できる。	【地域会議】 ・人材育成についての情報共有や意見交換、検討をすすめることができた。また、教育担当（プリセプターを含む）の人材育成にもつながった。 ・災害時保健師活動について協議の場を持つことができた。 【研修】 ・共催研修では、自組織を超えた育ち合う人材育成の環境を創出することができた。また、同じ二次医療圏内で災害などの健康危機に備え、平時からの顔の見える関係づくりが重要であることを再確認した。 ・連携をテーマとした研修では、評価の重要性と、連携を築く際の議論や関係性を重視する方法を学び、グループワークを通じて、保健師活動への意欲向上と地域連携の新たな視点やアイデアの獲得に繋がった。 ・部署横断的な連携を通じた保健活動を展開できる人材の育成を目指しているが現状では不十分。今後、これをさらに推進する必要がある。 ・新任期の教育体制に重点を置いているが、中堅期以降、特に管理職を目指す人材育成も重要であり、今後強化していく必要がある。
次年度計画（概要）（評価をどのように踏まえて、計画を立てるか。）	・研修プログラム検討会を年4回開催予定。 ・集合研修の内容や開催方法について、研修アンケートでの意見を参考に検討する。 ・災害時保健師活動マニュアル改訂を踏まえ、実践的な研修の機会を設ける。 ・保健師同士の交流となるよう、階層に関係なく学べる研修も継続して実施する。 ・保健師業務連絡会を設置し、保健師全体の課題の共有や、保健師としての共通認識を回る。 ・各種会議やアンケートで見えてきた課題について検討を進める（地区情報の収集、キャリアラダーの作成等）。	【地域会議】 ・定例会議は引き続き、月1回開催していく。 保健師の分散配置がさらに広がるため、組織横断的な連携をさらに進めていく必要がある。 【研修】 ・次期管理期となりうる保健師について、早いうちからの計画的な人材育成や意識づけを進めていく。 ・保健師業務研究会の中では、引き続き、災害時保健師活動にかかるマニュアルの見直しや訓練等を実施していく。 【その他の取組】 ・全数面談やキャリアラダーを引き続き実施し、人材育成への活用を図っていく。	【地域会議】 ・会議の継続と、情報共有を引き続き行う ・部署横断的な連絡会議の定期開催を検討する 【研修】 ・保健師全体研修のテーマを「2040年頃を見据えた地域支援のありかた」とし、「各課・係による保健師活動の評価」は引き続き実施する ・感染症を含む健康危機管理研修は継続実施する 【その他の取組】 ・災害時保健師活動の体制整備を進める